



発行 令和6年3月25日
一関市社会福祉協議会花泉支部

一関市花泉町老松字水沢193-1
電話/FAX 0191-82-4002

- ヘルパーセンター花泉 電話 0191-36-1226
- 介護支援事業所花泉 電話 0191-36-1226
- ケアプランセンター花泉 電話 0191-36-1226
- 高齢者総合相談センターはないずみ
電話 0191-36-3021
- 老松介護予防センター 電話 0191-82-5559

令和5年度花泉町福祉作文コンクール 入賞者のご報告

令和5年度の福祉作文募集は花泉小学校、花泉中学校、花泉高等学校に取り組んでいただき、全体で66点の応募をいただきました。このコンクールが第27回目を迎えたのも、各学校の先生方はもとより、保護者の方々や地域福祉に携わっていただいている皆様のご理解とご支援があったからこそと、心から御礼を申し上げます。

今年度も優秀作文表彰式と朗読発表会を開催したところであります。またコミュニティFMあすもによる広報を行い、そして応募いただいた全作品を冊子にまとめ応募者並びに関係者へ配布したところであります。

作文からは、障がいを持つ人と健常者が共に自分らしく生きる社会づくり、地域イベントにボランティアとして参加してふれあいが出来たことや家族の病気看護から自分が将来行うべき行動について述べていること等、人と人の繋がりによって、人間関係を円滑にしていくことの大切さを表現した内容でした。

社会人となっても作文に表した素直な思いを大切に、将来にわたって一歩踏み出す勇気を持ち続けることを希望するものであります。

今回は社協情報誌特集号として、6つの最優秀作品を全文掲載しお届けします。



この広報は、皆様からいただきました共同募金の配分金の助成を受けて発行しております。

認知症サポーター 養成講座を受けて

花泉小学校 四年

千葉るな

「回も聞いてくるんだろう。」
と思っていました。後からお
母さんやお父さんにひいおば
あちゃんのことについて聞いて、
「認知症」という病気や
その意味を知りました。

私は、先日認知症について
教えてもらった時に、亡く
なったひいおばあちゃんのこと
を思い出しました。ひいお
ばあちゃんがまだいすに座っ
ていられるぐらい元気な時、
学校から帰ってひいおばあ
ちゃんの家に行きました。ひ
いおばあちゃんは私に「学校
楽しかったかい。」と聞いて
きました。私が「うん、楽し
かったよ。」と言うと、ひい
おばあちゃんは「うん、じゃ
あよかったね。」と言ってく
れました。しばらくすると、
ひいおばあちゃんはまた同じ
質問をしてきました。「学校
楽しかったかい。」と。私は
さつきと同じように「うん、
楽しかったよ。」と言いまし
た。その時の私は、まだ「認
知症」という病気を知らなく
て、意味を知らませんでした。

ただ「認知症」という言葉だ
けしか知りませんでした。だ
から、「なんで同じことを何

回も聞いてくるんだろう。」
と思っていました。後からお
母さんやお父さんにひいおば
あちゃんのことについて聞いて、
「認知症」という病気や
その意味を知りました。

今回の「認知症サポーター
養成講座」で、「認知症」の
ことをいっぱい学びました。
私みたいな子どもや若い人
たちは、脳の動きがすばらし
いので、物事をすぐに覚える
ことができますが、お年寄り
は動きがぶくぶくなっていて、
覚えるのに時間がかかりま
す。そして、認知症になると、
「記憶のつぼ」に入れるのが
むずかしくなっていて、昔の記
憶は思い出せませんが、今の
ことを覚えるのができなくな
ってきます。さらに認知
症が進むと、記憶のつぼがこ
われてしまい、昔のことも
わすれてしまっていて思い出せ
なくなるそうです。亡くなっ
たひいおばあちゃんは、まさ
に、そのような病気になって
いたのだらうなど、今になっ
てそう思います。

認知症の人は、とても不安
な気持ちが大いそうです。
だから、おどろかせたり、相

手をきずつけるようなことを
したり、言ったりせず、やさ
しく言葉をかけてあげられ
たら、いいと思います。私の
家族が、もし認知症になっ
たら、認知症の人がいたりし
たら、やさしくしてあげられ
たいなと思います。

今の自分と比べると

花泉中学校 一年

佐藤結衣

年が明けた元日。誰もが予
想していなかった大地震。石
川県能登地方で、最大震度七
の地震が起きた。そのとき私
は初売りに出かけていたの
で、地震が起こった、ただそ
れだけしか分からなかった。
家に帰り、テレビをつけたと
き、私は津波警報という言葉
を目にした。そんなに大きな
地震だったのか、石川県の人
は大丈夫かな…と不安な気持
ちになった。

大きな地震といえば、私は
東日本大震災を思い浮かべ
る。私は当時、まだ一歳に満

たない乳児だった。震災の記
憶はほとんどないが、成長す
るにつれ、東日本大震災の規
模がどれほど大きなものだっ
たのが分かった。津波に飲
み込まれる家や車の映像を
ニュースで見るとき、私は胸
が苦しくなった。津波によっ
て多くの人の命が奪われたこ
とを知り、津波はとても恐ろ
しいものだと感じた。

そんな恐ろしい災害が、石
川県で起こったのだ。東日本
大震災のように、また多くの
人の命や生活が奪われてしま
うのではないかと思い、その
地震を知ったとき私は、悲し
く暗い気持ちになった。けれ
ども私は、当事者ではない。
石川県の人がどれだけ不安
を抱いているのか、計り知る
ことはできない。

そこで、今の自分には何が
できるかを考えてみた。一番
に思いついたのは、募金だ。
募金に協力することで、少し
でも被災地の方々の力になれ
たらいいなと思った。でも、
私が募金できる金額には限度
がある。もっと他にできるこ
とはないかと悩んでいたと
き、ある日の校長先生の話



花泉地域保健福祉まつり席上での表彰式

思い出した。

「今自分がやるべき目の前の課題に一生懸命取り組み、命を大切にすることが、皆さんにできることなのではないでしょうか。」

この話を思い出して、今の私にできることをもう一度考えてみた。勉強や部活動などのやるべきことに、前向きに全力で取り組んだり、自分の命も、みんなの命も大切にして過ごしたりすることが、今の私にできることなのではないかと、答えを出すことができた。だから私は、今できることを実行し、一日一日を大切にしていきたい。

福祉とは、「普通の暮らしを幸せに」することである。スイッチを押せば電気がついたり、蛇口をひねれば水が出たり。今当たり前だと思っていることは、決して当たり前ではない。だからこそ、今、楽しく幸せに過ごせているこの環境に感謝し、常に自分ができることを考えながら、生活していきたい。



共に考え、共に支え合う

花泉高等学校 一年

岩 淵 心 愛

私たちは、誰もが異なる状況や困難に直面しています。日常生活において大きな課題となることもあります。

私たちが当たり前のように行っていることが、一部の人間にとっては困難です。自分の意思を伝えることが難しい人、コミュニケーションを上手く取ることが難しい人がいます。彼らは外見だけではなく内面にも大切な価値を持っています。

私は、自分の経験から今、手助けをするのは主に二つあると思います。

一つ目は、同じ人間だからです。何故、障害者と健常者が違う人間だと思う人がいるのだろう。事故で傷を負った人、精神的に、心に傷を負った人など、世の中には苦しんでいる人は少なくはないと思

います。また支援を必要とする人は、日常生活において特別な手助けや工夫を求めることがあります。環境の変化や移動の際にも、私たちが気に留めないことが、彼らにとっては困難となります。そのような些細なことが彼らにとって大きな意味を持つことを理解してほしいと考えます。

二つ目は、外見だけで人を判断せず、きちんと内面も見接するということが自然にできる人が増えてほしいと思います。見た目よりも、その人が抱える困難や努力を理解し思いやりをもって接することが求められます。私たちは、

誰もが持つ権利と尊厳を尊重することで、共に暮らす社会がより共感と理解に満ちたものになることを信じています。心を通じて障害を抱える人とつながることが何よりも社会全体を包括的で温かなものに変えていくのです。同じように思いやりを持って彼らが自己を大切にし、希望を抱ける社会を築くことができるでしょう。

私が経験したことでは、電車内で歩きまわっている人を

見かけました。その人は電車内で目立っている人でした。他に座っている人はその人を見て笑っていました。その時私は何も出来ませんでした。障害のある人は世界には少なくありません。そのような中でやられて嫌だと思ふことをする人がいなくなることを信じています。もし障害のある人がいたら、彼らに対して積極的に手助けのできる人になってほしいと考えます。

このことから、福祉作文を書くことで、障害や福祉についてより深く理解し、社会の一員として障害のある人と共に生きていくことができるようになりそうです。障害を抱える人々は、私たちと同じように社会の一員です。彼らが自分らしく生きられる社会を築くために私たち一人ひとりができることを考え、実践して私たちが支えながら社会を築いていきたいと思います。



花泉高校の生徒はFM あすものスタジオで収録しました



橋本ゆかり校長より賞状の伝達（花泉高校）

福祉について

花泉高等学校 一年

齋藤 玲佳

私は祖父母と住んでいるため、高齢者に対する福祉について知りたいと思います、現在の福祉の課題などについて調べました。福祉とは、公的なサービスにより生活をより良くしていくものです。

高齢者福祉は、利用者の相談に応じて、日常生活のサポートなどそれぞれの必要に応じた支援活動を行います。高齢者に対する福祉には、さまざまなサービスがあり、配食サービスや日常生活用具の給付のほかに寝具洗濯乾燥サービスや訪問理美容サービスまであります。訪問理美容サービスとは、外出により理美容サービスを利用することが困難な在宅で暮らす高齢者の方に対して、理美容師の訪問にかかる費用を市が負担するものです。福祉と介護は、似ているけど違いがありま

す。福祉は社会的制度や環境を整えることで、介護は人に対して直接何かを行うことです。福祉を充実させることで介護をしてくれる人が増えていくと思います。高齢社会の福祉の課題は、医療、福祉の人材が不足して介護難民が生まれたり、保険料が値上がりしたりする事などがあります。また、少子高齢化により、人手不足になり長時間労働が常態化し、仕事と生活を両立させる事が難しくなることで、さらに少子化が進むという悪循環につながります。そこで、少子化の問題を解決するために、子育て支援事業をもっと充実させることが大切だと思います。

を紹介することで魅力が伝わると思います。また、送迎公共交通の充実、外出同行、付き添いをしてほしいという人も多く、送迎サービスをもっと充実させることも必要だと思います。高齢者の移動手段を増やすことができて、いろんな人とも交流することもできるようになると思います。高齢者が地域で安心して暮らせるように、見守りや声かけを行うことが大切だと思います。

今回、福祉について調べてみて、知らないことがたくさんありました。福祉の課題がたくさんあることや、高齢者が求めていることについて知ることができて良かったです。調べて知ったことを無駄にしないようにしたいです。自分にできることを探して少しずつ課題を解決し、住みやすい環境になったら良いなと思います。



私の福祉への心の旅は、数年前、地元の福祉施設でのボランティア活動から幕を開けた。そこで経験した出会いや感動、そして学びが私の探究心を刺激し、共に歩む人間のとて深く長い軌跡を紡いでいく過程が始まった。特に高齢者との交流が、感動と共に歩んでいくことの意味を鮮明にし、私の人間観に深い影響を与えている。

老人ホームを訪れ、様々な活動に参加する中で、高齢者たちとのふれあいが私にとって貴重な宝物になった。高齢者たちの豊かな経験や人生の深みに触れることができ、その中で見出す新たな視点が、私にとつての感動と学びを豊かにした。その中でも特に、戦争を経験したおばあさんとの交流は、私の心に深い感銘を残した。

福祉の大切さ

花泉高等学校 二年

佐藤 和哉



最優秀作品の朗読発表



おばあさんの過去はとてども
壮絶であり、その困難を乗り越え、それでもおばあさんは前向きな気持ちを保ち続けていた。おばあさんが私に言った、「困難な瞬間こそ、笑顔を忘れずにいることが大切なよ」という言葉は、私に福祉が持つ意味を気づかせてくれた。おばあさんの生き方は、福祉がどれほど心の支えとなり、人間の強さと希望を育むことができたかを私に教えてくれたのである。

この出会いを通して、福祉が単なる物理的な支援にとどまることなく、心の触れ合いなどがもたらす感動や共感などが、人生に新たな輝きをもたらすことをひどく実感した。福祉は支え合いやサポートだけでなく、お互いに学び合い、共に歩む中で築かれる絆が、その福祉の本質なのである。人と人との繋がりが大事な場であり、そこで新たな意味や価値が育まれるのだと実感した。

さらに、その後も福祉活動を重ねていく中で、高齢者や障害を抱える方々との深い交流で、共感と理解の大切さを

再認識することが出来た。社会の中で高齢者や障害を抱える方々などは見過ごされがちな存在であることは明らかだと思うが、彼らも当然人であり、私たちも同じように人である。だからこそ助け合いながら前を向き共に歩いていくことが大切だと考える。

このように、福祉とは、一方通行の支援だけではなく、お互いに学び合い、助け合いながら共に歩むことで、より深い経験や価値が生まれるのである。これからも私は福祉の旅を続け、人々との絆を大切にし、共に歩む中で生まれる成長と喜びを感じながら、社会への貢献を深めていこうと思う。皆さんも面倒くささらず高齢者や障害を抱える人々と話してみてほしい。福祉は単なる支援活動だけではなく、共に歩いていく人々たちとの深い対話を通して、私たちも成長することのできる紡がれる人間の軌跡である。



無くなつて欲しくないもの

花泉高等学校 二年

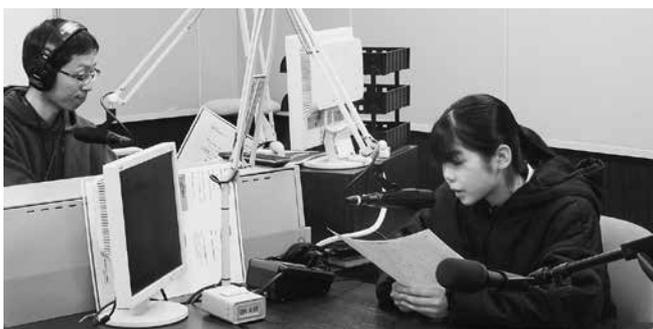
中村 れおな

私がこの花泉町に生まれて十六年という月日が経ちました。暑い日も寒い日もこの町と過ごしてきました。辛い日も幸せな日もこの町と過ごしてきました。少子高齢化が進んでいる現在、この町にも多くのお年寄りの方がこの町の自然をすべて味方につけているかのように元気に暮らされていることを私は知っています。

私はこの町に住んでいらっしゃるお年寄りの方が大好きです。もちろん全員の方と知り合いな訳ではありません。ですがなぜだかこの町に住まわれているお年寄りの方々は皆、この町の植物のようにしなやかで明るい方々でいっぱいだと思います。小さい頃からすれ違った人には挨拶をするよう教わり、保育園の頃から今ま

でどれほどの方に挨拶をしたか覚えているわけがありませんが、いつもエネルギーたっぷりの挨拶を返してくださる方々がいました。それがこの町のお年寄りの方々だったんです。高校に入ってから介護について学ぶ機会があり、その時にお年寄りの方々とお話をする時間をもらえました。そのお年寄りの方々は私達高校生との交流ができて嬉しいと何度も何度も伝えてくれました。私達以上に嬉しく思っていたいただき、笑顔で手を握り続けてくださいました。その時に私は小学校での行事を思い出しました。

私が通っていた小学校では昔ながらの遊びを地元のお年寄りの方々に教えていただきながら一緒に遊んだり、おもちを食べたりするニコニコ交流会という行事がありました。小学生とお年寄りの方々みんなの笑い声と笑顔が飛び交い、絶えることの無かったその交流会は私がとても大好きな行事でした。知り合いなわけではないのに、落ち着ける、楽しめる、そんなことなく感じたじんわりする心の



温かさは小学生だった私だけが感じていたものではなく、きつと一緒に遊んでくれたお年寄りの方々も感じていたんだと思います。また、老松夏祭りでもその心の温かさを感じていました。これらを思い出した時、どうか子どもとお年寄りが交流をする機会を無くすことにはなあって欲しくないと強く思いました。

子どもとお年寄りが交流する機会を持つことはお年寄りの方々にとって一番お金のかからない福祉支援に値すると思います。どれだけ短くても、お年寄りの方々は子ども達を見かけただけで自然と笑みが浮かんでいました。私は小さい頃、ふと向けてくださるお年寄りの方々の笑顔が大好きでした。今でも変わらず大好きです。そんな優しさあふれる笑顔を守っていくためには、子どもとお年寄りの二つの力が合わさることが必要です。

子どもたちとお年寄りの方々の交流を無くしてしまうことは悲しいことです。この二つのパワーが合わされば町は一気に活気づきます。それ

ほどなまでに強い力を持つているこの組み合わせにもっと視線を向けるべきです。



入賞者一覧 <13名> (敬称略)

小学校の部

最優秀賞 <1名>

花泉小学校 4年 千葉 るな

優秀賞 <1名>

花泉小学校 4年 黒井 凜

中学校の部

最優秀賞 <1名>

花泉中学校 1年 佐藤 結衣

優秀賞 <2名>

花泉中学校 1年 佐藤 和香

花泉中学校 2年 佐藤 和奈

高校の部

最優秀賞 <4名>

花泉高等学校 1年 岩淵 心愛

花泉高等学校 1年 齋藤 玲佳

花泉高等学校 2年 佐藤 和哉

花泉高等学校 2年 中村れおな

優秀賞 <4名>

花泉高等学校 1年 岩淵 大翔

花泉高等学校 1年 佐々木莉麻

花泉高等学校 2年 菅原 愛加

花泉高等学校 2年 千葉 姫愛



応募総数：66点

小学校 4年 =	7点	中学校 3年 =	2点
中学校 1年 =	3点	高等学校 1年 =	23点
中学校 2年 =	1点	高等学校 2年 =	30点

